

温故知新 北海道大学
**挑戦の
 140年**

SCENE-17

1898-1924

「北海道帝国大学の開学」



1. 札幌の東北帝国大学農科大学の校庭と校舎 (1917年、大学文書館蔵)
2. 北海道帝国大学医学部附属病院 (1920年代、大学文書館蔵)
3. 仙台の東北帝国大学医科大学 (1915年ころ)
4. 農科大学の昆虫学研究室 (1910年代、大学文書館蔵)
5. 農科大学の土木工学科の測量演習 (1910年ころ、大学文書館蔵)
6. 農科大学附属図書館の閲覧室 (1910年ころ、大学文書館蔵)
7. 農科大学の農業経済学演習 (1910年ころ、大学文書館蔵)
8. 農科大学の農芸化学実験 (1910年ころ、大学文書館蔵)
9. 仙台の東北帝国大学本部と理科大学 (1915年ころ)
10. 北海道帝国大学正門 (1919年、大学文書館蔵)

北海道に大学設置を求める声

北海道に大学設置を、という要望は札幌農学校時代からあった。一八九八年に農学校生が刊行した学校案内誌「札幌農学校」では「札幌帝国大学の必要を論ず」との一章を設けている。佐藤昌介校長は、一八九九年六月二七日の大学設置を目指す有志者の会合で、「本道に大学の設置を望まば、早く今日より着手せざるべからず。……本道拓殖上熟望して止ざる人材を出すは、十五年乃至二十年の後にあり」と述べ、早期の大学設置を主張した。札幌を中心に各方面からも大学設置を求める声が上がった。

政府・文部省は、帝国大学は複数の分科大学(学部)をもって構成すると位置付けていたため、農学のみを札幌農学校は単独で大学に昇格することは難しかった。一方で、高等教育を拡充するために東京・京都に次ぐ帝国大学を要望する声も社会的に強くなり、九州・東北に新たな帝国大学を増設する議論が進んだ。この議論に札幌農学校の大学昇格問題が絡んで、札幌農学校を改組した農科大学と、仙台に新設する理科大学の合わせ技により、一九〇七年に東北帝国大学を設立した。

大学独立への気運

牧野伸顕文部大臣は東北帝国大学農科大学開校式の式辞で「今回当農科大学の成立は実に他日独立の北海道を成立せしむべき基盤なれば、諸君は深く此の意を諒して本大学の美果を収むる様大に努力せられん事を切望す」と述べている。関係者の中では、農科大学の将来像に独立

学設立経費は大幅に縮減できるとの指摘である。

さらに、「法文科は唯教授を得、図書館の設備を完全ならしむれば可なるを以て比較的容易に設置し得べし」と続ける。理科、工科、医科に比べ、法科や文科は実験施設・設備の整備の必要がなく、教授陣の配置と図書館の充実で対応可能であり、設立経費は安価であるとした。また、農科大学出身者は北海道庁などの役人としても重要な地位を占めていたが、その多くは技師であった。中央省庁の文官の多くが法科大学出身であるように、北海道庁や樺太庁の幹部行政官を養成、輩出する法文科の新設も期待されていた。

「天晴」、 「面目」が本音

どの分科大学を優先するかについて議論百出であったが、同紙は「少くとも大

**制度を取って創立せられ五帝国大学の一に列し、
 を立つるに至れり」** (1919年3月1日北海道帝国大学創立第1回祝典での佐藤昌介総長式辞)

した大学開設を織り込んでいた。東北帝国大学は、札幌の農科大学に続き、一九一一年に理科大学、一九一五年に医科大学をいずれも仙台上に開学した。東北帝国大学医科大学の設置が決まると、一九一四年一月二七日付けの『北海タイムス』は、「仙台上に医科大学開設せらるれば、東北帝国大学は既設の理科と併せて始めて大学らしき大学となり、強いて其歴史を異にし、其校風を異にする農科大学を留保し置くの必要を見ざるに至るべし」と、仙台上に複数の分科大学が揃い、札幌の農科大学が独立する時機が到来したと主張した。そして、農科大学のほかに、もう一つ新設する分科大学をどの分野とするかが課題となった。

医科？理工科？法文科？

同紙は、まず「理工科は、教授共通の点に於て、器具器械費節約の点に於て、又現在の農科に既に理工科の基礎たるべき学科目あるに於て諸種便宜ある」と指摘した。農科大学には植物学、動物学、昆虫学、園芸学、農芸化学など、理科・工科と関係性があり融通の利く講座があった。また、中学校卒業者が土木技術を専門に学ぶコース「土木工学科」もあり、その設備・教授陣を工科に振り替えることも可能であった。

一方、「医科は、将来附属病院たるべき区立病院の案外完備しあるを多とす」と見た。十年以上前から札幌区立病院の改築計画があり、大学の附属病院と同等の設備を整えて、将来、医科大学が開学した際には設備や医療スタッフを札幌区から大学へ引き継ぐという構想があった。医科大

**「北海道帝国大学は独立総合の
 札幌なる学都に於て大学の権威**

正七年即ち開道五十年迄には理工科若くは医科或は法文科の一乃至二科を増置して、其形体に於て、其実質に於て、天晴北海道大学たるの標榜に背ざらんを希望す」と記した。二年後、一九一六年五月三日付け『北海タイムス』も「要は其何れにても可なり。堂々十一州の地、百八十万道民が其面目に掛けても是非一個の独立大学を欲しと思ふの至情は、殆ど何人にも夙に之れあるべく」と主張した。つまり、どの分科大学でもよいので北海道に独立した大学を設置したい、というのが本音であった。何かと本州以南の「内地」と引き比べられることの多い、北海道という地方の矜持と見ることが出来る。

一九一八年、いわゆる「開道五十年」の年に、北海道帝国大学が開学した。東北帝国大学農科大学は北海道帝国大学の農科大学(一九一九年に農学部と改称)となり、医学部創立の準備が始まった。

Hokkaido University HISTORY
 1898-1924

1898年 6月	学芸会編『札幌農学校』に「札幌帝国大学設立の必要を論ず」掲載
1899年 6月	佐藤昌介校長が有志の会合で、早期の大学設置を主張
1907年 6月	東北帝国大学農科大学(札幌)設置、札幌農学校の農科大学昇格を公布
1911年 1月	東北帝国大学理科大学(仙台)設置
1914年 11月	27日付け『北海タイムス』が「北海道大学」創設論を掲載
1915年 7月	東北帝国大学医科大学(仙台)設置
1916年 5月	3日付け『北海タイムス』が「大学独立問題」掲載
1917年 7月	帝国議会が医科大学設立予算を承認
1918年 4月	1日、北海道帝国大学設立、北海道帝国大学農科大学へ改組
1919年 2月	7日、北海道帝国大学農学部(農科大学から改称)、医学部を置くことを公布
3月	1日、北海道帝国大学創立第1回祝典を開催
4月	1日、北海道帝国大学農学部、医学部を施行

大学文書館 だいがくぶんしょかん Hokkaido University Archives

北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。